

アデノウイルス感染症

アデノウイルスは、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎（はやり目）、滲出性扁桃炎のほか、胃腸炎や出血性膀胱炎など多くの病気の原因となります。また、普通の上気道炎や咽頭炎（かぜ症候群）の原因となることもよくあります。現在、65種類以上の型があることがわかっていますが、病気との関連では、3型、2型などと咽頭結膜熱、8型、37型などと流行性角結膜炎、40、41型と胃腸炎、11型と出血性膀胱炎が知られています。最近では7型による乳幼児の肺炎が流行し、注意が必要とされています。

飛沫感染や直接の接触感染、あるいは経口感染でもうつります。潜伏期間は通常約1週間です。

症状

症状はそれぞれの病気により異なりますが、咽頭結膜熱や滲出性扁桃炎、あるいはかぜ症候群では高熱が比較的長く（3～7日間）続く傾向があります。血液検査でも中等度以上の炎症反応をみることがしばしばあります。肺炎はまれですが、重症となり、死亡することもあります。

診断

従来ウイルス感染症の確定診断は困難でしたが、最近迅速診断キットができて簡単に診断することが可能になりました。滲出性扁桃炎等では、細菌によるものとの鑑別が重要となります。

治療および看護

現在の所、特別な治療法はありません。発熱や脱水等に対する対症療法が基本となります。肺炎では入院の上、しっかりとした管理・治療が必要です。

予防法としては、感染源との接触を避けること、流行時はうがいや手洗いを励行すること、水泳前後のシャワーや洗眼などが重要です。

咽頭結膜熱や流行性角結膜炎は学校伝染病に指定されていますので、「治癒証明書」が必要です。また、滲出性扁桃炎や胃腸炎など、その他のアデノウイルス感染症でも、しっかり改善して医師の許可があるまでは休園・休校するようにしましょう。必要があれば治癒証明書を出します。

滲出性扁桃炎



流行性角結膜炎



